

■9月18日

日航、外国人持ち株比率50%超え

まもなく再上場から1年を迎える日航の外国人持ち株比率(外国人直接保有比率)が50%を超えたことが2013年9月10日、証券保管振替機構(ほふり)のまとめで分かった。高い収益力を背景に割安感が評価されたとみられる。2012年9月の再上場直後と比べ2倍強となる。

JALは2010年1月に会社更生法の適用を申請して経営破綻したが、公的支援によるスピード再生の結果、12年9月19日に東京証券取引所第1部に再上場。上場直後の外国人持ち株比率は24.5%だったが、13年2~4月には40%周辺を推移し、それ以降はじりじりと上昇を続けていた。「ほふり」の発表によると、9月10日時点で50.05%だ。

法的整理を経て改善した財務体質と収益力や、すべての外国人株主に配当できるように定款を変更した点が評価された。

(日経)9/18

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO59835130X10C13A9DT0000/> (->

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO59835130X10C13A9DT0000/>)

(マイナビ)9/10

<http://www.i-cast.com/2013/09/10183511.html?p=all> (-> <http://www.i-cast.com/2013/09/10183511.html?p=all>)

エアアジア・ジャパン(LCC)、8月利用実績、搭乗率、国内線82.9%、国際線73.5%

エアアジア・ジャパンは11日、8月の利用実績を発表した。それによると、国内線搭乗率は82.9%。特に成田発着の国内線搭乗率は88.4%で運航開始以来の過去最高を更新した。搭乗者数は前年比52.3%増の8万2175人と増加した。

一方、国際線搭乗率は73.5%で、搭乗者数は4万1001人となった。路線別では、成田/台北線の搭乗率が92.8%となり、国内線を含めて全路線で最も高い数値となった。

なお、国際線と国内線を合わせた搭乗率は79.5%であった。

(トラベルビジョン)9/17

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58843> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58843>)

(aviationwire)9/11

<http://www.aviationwire.jp/archives/25845> (-> <http://www.aviationwire.jp/archives/25845>)

エアアジアX(LCC)、セントレアへ就航、14年上期

(日刊工業新聞によると)

愛知県の大村秀章知事は17日の定例会見で、マレーシアの格安航空会社(LCC)エアアジアXが2014年1—6月に、中部国際空港—クアラルンプール路線を開設する見通しだと発表した。同路線は08年にマレーシア航空が運休して以来、直行便が途絶えており、実現すれば中部地域とマレーシアの交流の拡大が期待される。

大村知事は中部路線の充実や愛知県への観光客の増加を図るため8—12日にマレーシア、ベトナム、韓国を訪問し、航空会社首脳や行政・経済関係者と面談した。

9日にエアアジアXを訪れ、同路線の開設を求めた際、アズラン・オスマンラニ最高経営責任者(CEO)が「来年の前半に名古屋に必ず乗り入れる」と応じたという。11月に正式発表する見込みで便数は「週4便と聞いている」(大村知事)。

(日刊工業新聞)9/18

<http://www.nikkan.co.jp/news/nkx1420130918hmar.html> (-> <http://www.nikkan.co.jp/news/nkx1420130918hmar.html>)

エジプト航空、成田線運休を延長

エジプト航空は、成田—カイロ線の運休期間を、8月時点で10月26日に延長していたが、2014年3月29日まで再度延長することが分かった。今後については、状況を見ながら来年以降判断する。

同社によると、エジプトの治安悪化の長期化により、大手各社を中心にパッケージツアー催行を見合わせていることなどから運休を決定したという。

(トラベルビジョン)9/17

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58886> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58886>)

大韓航空、新潟—仁川線減便、週5便へ

大韓航空は、毎日一往復便運航していた新潟—仁川便を、10月27日から週5往復に減便することが分かった。この路線は2004年10月からDaily運航を行っていた。

新潟県空港課によると、竹島問題の影響などが考えられ、昨年後半から月別利用客数の前年度割れが続いており、同社から減便の提案があったという。

(朝日新聞)9/18

<http://www.asahi.com/area/niigata/articles/TKY201309170419.html> (-> <http://www.asahi.com/area/niigata/articles/TKY201309170419.html>)

中国、世界最標高の「四川稻城亜丁空港」開港

(世界日報によると)

世界最標高の民間用空港が16日、中国四川省カンゼ・チベット族自治州稻城県で開港した。17日付の中国紙「華西都市報」などによると、開港したのは海拔4111メートルにある四川稻城亜丁空港で、四川省都・成都と同空港間が約1時間で結ばれる。来年には広州、上海、西安などの国内線が就航する予定。

総工費13億元(1元=15円)を投じて4200メートルの滑走路を完成させ、2020年までに28万人の利用を見込んでいる。

(世界日報)9/17

<http://www.worldtimes.co.jp/news/world/kiji/130917-132353.html> (-> <http://www.worldtimes.co.jp/news/world/kiji/130917-132353.html>)

エア・バガン、日本に代理店開設

(NNA ASIAによると)

民間航空最大手のエア・バガンは17日、日本での予約・発券業務を開始した。日本地区の総販売代理店として東京に本社を置くJBSアビエーションマーケティングを指名。ミャンマーには8つの航空会社があるが、日本に代理店を開設したのは、国営のミャンマー航空に次いで2社目だ。

エア・バガンの日本語サイトも近く開設する。

エア・バガンは昨年12月、ヘイホー空港で乗客1人が死亡する着陸事故を起こしているものの、機内サービスや定時運航でミャンマー在住日本人には引き続き評価が高い。

これまで予約や発券は日本からの利用客でもミャンマーで受け付けていたが、今後はJBSが日本市場を管轄する。旅行会社に対しては割引運賃で、個人客に対しては正規運賃で販売するため、旅行会社を通じて予約した方が安いケースも出てくるようだ。

エア・バガンは昨年、ミャンマーの航空会社で初めてEチケットを導入。週400便を運航し、2011年には国内線旅客輸送

で首位、昨年は国営のミャンマー航空に次ぐ2位だった。国際線としてヤンゴン～タイ・チェンマイ線にチャーターベースで就航している。

なお、日本への就航計画は現時点ではない。仏ATR72型など小型機材のみ5機を保有しているためだ。

(NNA ASIA)9/18

<http://news.nna.jp/free/news/20130918mmk001A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130918mmk001A.html>)

上海空港、8月、航空機乗り入れ数、前年同期比5.6%増

(chinapressによると)

上海浦東国際空港、上海虹橋国際空港を運営している、上海機場が、2013年8月の経営報告を発表した。

報告によると、上海空港2013年8月の航空機乗入数は、2012年同期比で5.6%増加し、3万3651機(回)となった。

8月の乗客乗降数は、前年同期比7.3%増の449万5900人。貨物取扱量は、前年同期比1.6%減少の24万3200トンとなっている。

先日発表されたデータでは、上海空港2013年1月—8月の営業収入は、2012年同期比で8.7%増の24億9300万元(約401億3200万円)。

1月—8月の純利益は、2012年同期比で18.3%増加し、8億9300万元(約143億7600万円)に達していた。

(China Press)9/17

<http://www.chinapress.jp/pd/38329/> (-> <http://www.chinapress.jp/pd/38329/>)

リンク(LCC)、同社取締役整備部長の土佐谷昭氏が就任

リンクは9月17日、12日付で杉山前社長に代わり、新社長に同社取締役整備部長の土佐谷昭氏が就任したと発表した。

土佐谷氏は、旧日本エアシステム出身で、天草エアライン取締役整備部長のほか、スターフライヤーとフジドリームエアラインズでも整備関連管理職などを務め、2012年にリンクへ入社、今年6月末から取締役に就いていた。

(日刊航空)9/18

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(リンクプレスリリース)9/17

<http://linkairs.jp/pdf/130917.pdf> (-> <http://linkairs.jp/pdf/130917.pdf>)

成田空港、第二ターミナル、シャトルシステム廃止、新連絡通路27日から供用

成田国際空港会社(NAA)は13日、第2旅客ターミナルビル本館とサテライトを結ぶシャトルシステムを廃止、新たな連絡通路を今月27日から供用開始すると正式に発表した。

新連絡通路は、北側(本館からサテライトへ向かって左側)を出発動線、南側を到着動線に分けてセキュリティを確保する。それぞれ幅約6.5m、長さ約220m、動く歩道を整備し、柱や窓枠を極力減らして、開放感を感じさせるデザインとした。自然光を取り入れて照明電力の節減を図り、空調も地中熱を利用するなど、環境負荷軽減を考慮した設計となっている。

(日刊航空)9/18

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(NAAプレスリリース)9/18

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

